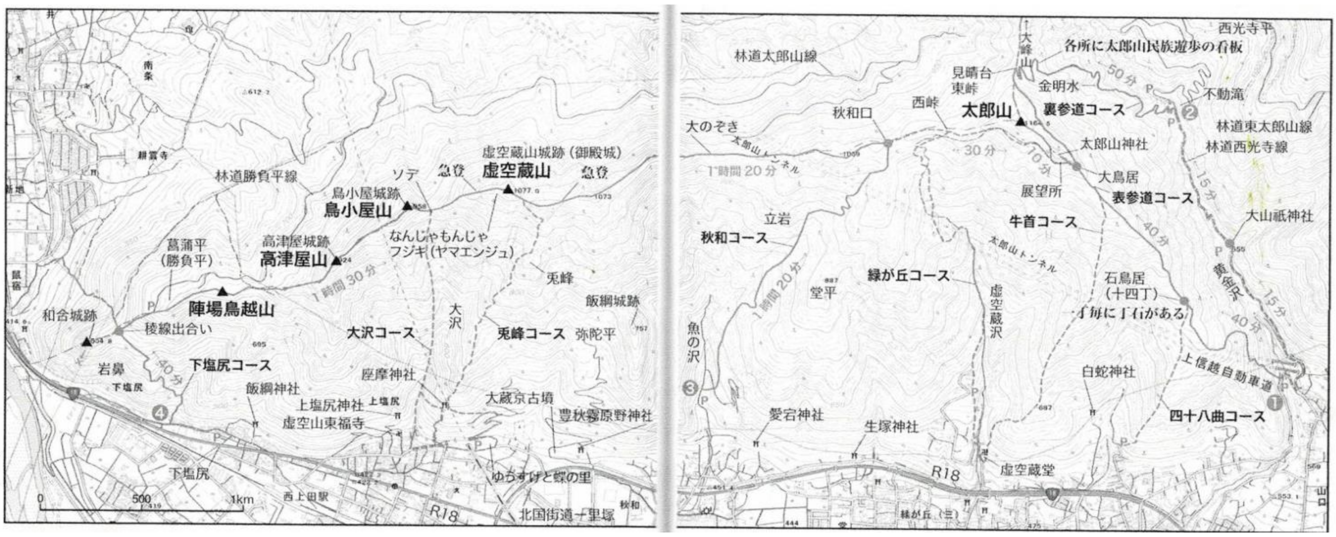
▲△▲　里山―太郎山（*1,164m*）（個人山行）▲△▲

（報告）坂井　康悦

◎山行期日：2022年５月２日　　◎メンバー：坂井、家内、娘夫妻



「信州の里山トレッキング」東北信編より

４月後半から、はしり梅雨の様そうで、雨降りの日が多かった。新緑がさぞかし美しいだろうから、どこかの山に登りたいと、年がら年中、忙しくしている娘夫妻がゴールデン・ウイークに、軽井沢・追分にやって来た。途中、藤岡の「みかぼ未来館」での「ふじ祭り」で藤の花を堪能してきたと言っていた。大昔に読んだ池波正太郎著の「真田太平記」をふと思い出した。その中に出てきたのではないかと、上田城の借景になっている「太郎山」はどうだろうかと思った。前々、山名の「太郎山」というのが気になっていた。上田盆地の北に位置する「太郎山」は手ごろな里山だ。

追分から昔の広域農道、今の「サンライズ」を走り、上信越自動車道の小諸北インターチェンジから入り上田までは30分の近い距離だ。朝、ゆっくり８時半に出、「太郎山」の山体を貫いている高速の「太郎山トンネル」脇の登山口は、早や車の駐車で一杯だった。コロナ禍にも関わらず、大勢の登山者でごった返していた。久し振りの晴天に恵まれ、こんなにも人気のある山なんだーとびっくりした。

表参道を登り、裏参道を下る周回コースをめざして、９時40分に登り始めた。多くの登山者の話し声やら高速道を走る車の音を聞きながら、登山口の階段を登る。登りやすくはあるが、少々急坂を一丁（約110m）ごとに表示された「丁石」を目指して、つづら折りに登ること約１時間で中間地点の14丁にある立派な石の鳥居に着いた。登ってきた中学生らが、賑やかに10段ぐらいの石段に座り、記念の集合写真を撮っていた。どの顔も晴れやかで、うれしそうだ。毎年、この時期、この山で行われるというトレイル・ランニング（上田バーティカル・レース）の標識や親子で挑戦するのか、事前試走に余念のない姿に出会った。地元に根付いた格好の野外スポーツのフィールドになっているのに感心した。11時半にようやく24丁の古くから地元の信仰を集めた由緒ある「太郎山神社」に着いた。神社脇の展望台からは春がすみにかすんではいたが上田市、郊外の塩田平、遠くに蓼科山、八ヶ岳連峰、アルプスまで望まれ、大満足した。近くには、過去に登った塩田平の独鈷山や子檀嶺岳、坂城町の姨捨山（冠着山）などが望まれ懐かしかった。昔の山ガールの家内と娘が下山路を慎重になり、往路をみんなで下り、登山口に２時前下りた。別所温泉の「安楽寺」のおはぎは、３時で終了、食べそこなったが、共同浴場の「大師湯」でひと風呂浴びて、帰路についた。コロナ禍で、蟄居を余儀なくされていた身体のさび落としには、薫風香る五月の緑滴る、気持ち良い家族ハイキングであった。

（了）